

- Okita, T., 1960: J. Meteor. Soc. Japan., 38, 207-209.
- Peterson, J.T. and Stoffel, T.L., 1980: J. Appl. Meteor., 19, 275-283.
- Shreffler, J.H., 1979: J. Appl. Meteor., 18, 1512-1520.
- Saitoh, T., 1980: Future Oriented Proc., 5, 18-29.
- 齋藤武雄・遠藤光緑, 1981: 東北技術だより, 2, 24-32.
- ・福田浩三, 1981: 東北技術だより, 2, 32-39.
- ・遠藤光緑, 1983: 日本機械学会論文集, 49, 2035-2040.
- Saitoh, T. and Fukuda, K., 1985: Bulletin Japanese Society of Mech. Engrs. 28, 101-107.
- 仙台市, 1982: 仙台市公害白書, 12
- Takano, K., 1978: Sc.D. Thesis, Univ. Tokyo.
- Terjng, W.H., 1981: Boundary Layer Meteor., 21, 255-263.
- , 1980: Boundary Layer Meteor., 19, 93-118.
- Vukovich, F.M. and Dunn J.W., 1978: J. Appl. Meteor., 17, 1585-1594.
- , and King, W., 1980: J. Appl. Meteor., 19, 761.
- , Dunn, J.W., and Crissman, B.W., 1976: J. Appl. Meteor., 15, 417-440.
- Viskanta, R.A. et al., 1976: J. Heat Transfer, Trans. Ame. Soc. Mech. Engrs, 98, 662-669.
- , and Daniel, R.A., 1980: J. Appl. Meteor., 19, 53-70.
- , and Weirich, T.L., 1980: ASME paper No. 80-WA/HT-4, 1-13.
- 吉田篤正・国友 孟, 1983: 日本機械学会論文集, 49, 1.



日本放送協会 編  
NHK 最新気象用語  
ハンドブック

日本放送出版協会 1986年  
A 5 版, 254頁, 2,000円

このごろは気象衛星ひまわりの雲画像, 降水確率, アメダス情報, 予想天気図などのTV放映が当たり前のようになってきた。私が気象庁に勤務していた昭和48年までの状況とはまさに様変わりを感じて, 技術革新の大波をひしひしと感じさせられる。一般の人々も同じ感じを持っているらしく, いろいろな有識者がメンバーになっている委員会などでの技術革新の枕言葉によく前記のことが引用される。

本書はこのような情勢に対応するために, 昭和39年に出版された「気象用語集」を改訂したもので, 内容は次の3部構成からなっている。

I 天気予報, 1 天気予報の新技术, 2 天気予報  
3 天気予報のことば

II 日本のお天気, 1 四季, 2 一般気象

III 地震と火山

付録 (各種統計表)

I部の天気予報の新技术のところでは, 最新の気象観測・予報に関係する人工衛星, レーダー, アメダス, 数値予報などに関する簡潔な解説がある。特に本書の真髄である「天気予報のことば」については, I部に12ペー

ジにわたって詳細な説明があり, さらに他のところでも特別な術語が出てくるたびに, 放送ではどのように扱うかの注意書きがある。これらは放送の利用者のみならず気象の専門家にとっても有益である。

II部では四季の典型的な気象現象に加えて, 酸性雨など最近問題になっている現象や大雨の降りやすい日・晴天率の高い日のような気象現象の起る確率の高い特異日についても具体的な日付など興味ある資料が掲載されている。

III部では, 地震のしくみ, 最近の大地震から東海地震予知計画, 火山まで広範にわたる解説がある。

付録には, 生物季節, 初霜・終霜, 初氷, 初雪, 過去の豪雪, 山火事の月別発生件数, 日本と世界の地震と火山の被害 (死者数) など合計8つの貴重な表があり, 資料としての価値も高い。本書はまた次の引用文からも分かるように気象の読物としても興味がある。

「星のささやき——屋外の気温が氷点下 50°C ぐらいに下がると, 人の息が耳のあたりで凍り, かすかな音をたてるという。シベリア東部のヤコートの人は, この音を「星のささやき」と呼んでいる。…中略…。ここでは気温が氷点下 40°C 以下に下がると大気中の水分が凍って町中ミルクをまいたような濃霧 (氷霧) が発生する。………」

広範なユーザーに理解してもらうための編集者の努力と気配りが本の隅々まで行き届いている良書である。

(千葉大学工学部 土屋 清)